令和３年度　中央区立久松小学校　自己評価報告書

中央区立久松小学校　　住所　東京都中央区日本橋久松町７－２
校 長　　植 村 洋 司　　児童数　８２２人　　学級数　２４　　教職員数　３５名（７６名）

教育目標　　「強　　く」　「正　し　く」　「豊　か　に」
○　心身ともに健康で､自律と自立のための強い意志と向上心をもち、自らよりよい成長を目指す。
○　ものごとを正しく見つめ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。
○　豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心をもち、共生社会の担い手となる。

１　令和３年度の重点の達成状況及び取組状況

豊かな心と健やかな体の育成

（主体性・関わる力・健康・体力・主体的・対話的で深い学びの育成）
～教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実～

重点目標１　「年間を通した教育課程の充実」
～教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実～

評価項目
(1)　「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を核とした資質・能力の育成を目指した教育課程の編成
(2)　教員の授業力向上
(3)　開かれた学校づくりの推進

評価指標
(1)　全体計画の改善・充実　　重点化と年間指導計画の改善
特色ある教育活動の充実　　ゆとりある授業時間数確保
オリンピック・パラリンピック教育の充実
(2)　分かる授業の実践　　認め合い励まし合える小集団活動
特に、特別の教科 道徳、英語科・英語活動、理数系の充実
(3)　「久松すくすくプラン」に基づいた家庭との連携
近隣保育園、幼稚園、中学校との交流機会の確保
学校公開やホームページ等を通して積極的な情報発信

総合評価で、肯定的な評価の割合が約9割と高かった。

（１）　教育課程の編成
・　昨年度と同様、コロナ禍で今までの教育活動の中止や縮小を余儀なくされることもあったが、昨年度の経験を生かし、児童のためにできることを考え、体育学習発表会や展覧会など、本校職員全員で考え行事を行い、その中で行事ごとの評価を行い、その結果を活用して次年度の計画を立てている。
　その中でも今年度は中央区教育委員会研究奨励校として、「カリキュラム・マネジメント」についての研究を深め、令和3年12月10日に研究発表会を開いた。コロナ禍ではあったが、それでも学校への参集者140名、オンラインによる参加者が200名と盛況であった。2年間研究を進めて、新学習指導要領に対応した指導の重点化、全体計画・年間指導計画の改善・充実を図ることができた。今後も全教職員で研究を深めそして未来につなげていきたいと考える。
・　昨年度以上に、タブレット端末を活用した授業展開、そしてオンライン会議システムを活用した保護者会や個人面談を行った。令和4年1月にはオンラインによる学校公開も開催した。
・　オリンピック・パラリンピック教育アワード校として、「豊かな国際感覚」の醸成に向けて、世界的パフォーマーを招きお話を聞いたり、実技体験をしたりする機会をもつことができた。
また、東京オリンピック陸上女子100mハードル日本代表の寺田明日香選手を招聘し、５・６年生にハードル走の授業を行った。本物の力を目の当たりにし子どもたちも競技に興味をもち、夢や希望をもってこれからの人生を歩んでいこうとする意識を高めることができた。

（２）　教員の授業力の向上
・　研究奨励校としての自覚を全教職員がもち、校内研究の充実、一部教科担任制、交換授業・カリキュラム・マネジメントの充実等により小集団活動を活用した学び合いのある授業、分かる授業づ

くりを追究した。

・　また一人一人が研究テーマである「カリキュラム・マネジメント」を意識して授業を行うことができた。そして横断的な単元指導計画表も作成することができた。

・　理数系・体力向上・「特別の教科　道徳」や外国語科、外国語活動に関する活動を中心に計画的な指導の成果が出ている。

（３）　「久松すくすくプラン」に基づいた地域・家庭との連携

・　今年度は昨年度できなかった久松幼稚園や保育園、幼稚園との交流活動を行うことができた。それにより、保幼小連携の意識も高まった。また昨年度同様、学校紹介のＤＶＤを久松幼稚園や近隣保育園、幼稚園に配布したり、連絡を取り合ったりするなど、連携を図ることができた。

・　体育学習発表会の公開や展覧会の動画公開など、なかなか保護者が参観できない中、学校の様子を発信し続けることができた。

重点目標２　**「豊かな心と健やかな体の育成」**・・・知・徳・体のバランスと調和を重視し、
自立・協働・創造　　特に豊かな心と健やかな体を育てる。

評価項目　(1)　違いを認め、互いに尊重し合い学び合う集団づくりを通し温かい人間関係を育む。

(2)　自らの健康・体力についての関心を高め自己管理能力を育成する。

評価指標　(1)　小集団活動の推進　学び合いの重視　異年齢活動・交流活動の推進
久松しぐさ　特別支援教室「スマイル」の指導の一層の充実

(2)　基本的生活習慣の定着　異年齢活動、交流活動での人間関係づくり
「久松しぐさ」によるルールやマナーの尊重　「返事・あいさつ・ありがとう」の徹底

(3)　マイスクールスポーツの充実　体育、保健学習、食育の充実　健康教育
ロング放課後の確保

総合評価で、「豊かな心を育む」は90.1%、「健やかな体の育成」は83.1%と肯定的な評価の割合が高かった。

（１）　温かい人間関係の醸成

・　コロナ禍の教育活動において、一番大事にしたのは子どもたちの心と体を守ることである。そこで昨年度と同様、子どもたちに「三つの顔」を指導したことで、児童一人一人が互いを尊重し学び合うことができる温かい集団づくりを目指し、他者との関係を適切にもつことができるようになってきた。

・　年間を通して、感染対策を講じた上で全校縦割り活動などの「異年齢活動」、児童相互挨拶の実践「あいさつ当番」、思いやりを行動で表現する「久松しぐさ」等の取組により、コミュニケーション力や温かい人間関係を育む力を育成することができた。

（２）　健康・体力の自己管理能力の育成

・　コロナ禍ではあったが、昨年度以上に休み時間や縦割り遊びなどで、校庭・アリーナ・屋上などを活用し遊ぶ時間と場所を確保できた。

・　マイスクールスポーツである「水泳」においては6月から7月の間で全学年指導した。また「なわとび」については体育朝会で取り組んだり、休み時間に体育委員会が積極的になわとび検定を行ったりするなど、指導を継続した結果、なわとびに取り組む児童がかなり増えた。さらに、保健指導を中心に、健康教育の充実を図ることができた。

２　重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

家庭・地域社会多様な関係機関との関係づくり

・　コロナ禍ではあったが、各学年工夫してどの学年も地域に出かけたりオンラインでつながったりすることができた。地域の人々と関わりながら発達段階に応じた充実した学びが実現できた。

・　オンライン保護者会や動画配信、オンライン学校公開などを通して、たくさんの保護者に学校の様子を公開し、地域や保護者と連携した教育を行うことができた。

・　毎日ホームページやGoogle Classroomを積極的に活用し、学校になかなか来られない保護者に日常の授業や行事等の取組を発信することができた。

３今後の改善方策

[1]　主体的に思考を深め、互いの考えを豊かに表現し、共有し合う、深い学びの推進

- 自ら課題を解決し実行できる力を育むカリキュラム・マネジメントの推進
- タブレット端末の更なる活用と、小集団活動の充実
- 校内研究、研究実践報告会、一部教科担任制、交換授業等による授業研究の充実
- 特別の教科　道徳を中心とした、各教科、総合的な学習の時間、特別活動の充実
- 少人数指導、朝学習や放課後の時間を活用した補習、タブレット端末による個々の能力に応じた習熟度別の基礎基本の定着

[2]　温かい人間関係を育む教育の推進

- 年間を通した「久松しぐさ」の推進と定着
- 心のこもった「返事・あいさつ・ありがとう」言葉遣い
- 基本的な生活習慣の定着　・異年齢活動、幼稚園・保育園との交流活動の充実
- 宿泊・遠足等行事、勤労感謝の会、地域ボランティアなどを通した体験活動の充実、
- 登下校時、授業、朝会や集会でのあいさつと朝会、集会での５分前集合
- 環境教育の充実、校内外の環境美化による栽培・奉仕活動
- 久松すくすくプラン(発達の段階を踏まえた到達目標)を見直すとともに、全職員による共有と指導の徹底

[3]　健康と体力向上についての自己管理能力の育成

- 体育の授業の充実　　・マイスクールスポーツ「なわとび」「水泳」への取組
- 投げる運動、跳ぶ運動の充実
- 水泳サポート教室、マット・跳び箱サポート教室の取組
- 食育、保健学習の充実
- 朝遊び、中遊び、昼遊び、ロング放課後遊び等、遊びの時間と場所の確保・充実
- オリンピック・パラリンピック教育等の推進
- トップアスリート等による講演会・スポーツ教室の実施